

弥陀ヶ原の火山活動解説資料（令和7年5月）

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

地獄谷周辺の地震活動は低調で、火山活動によるとみられる地殻変動も認められませんが、地獄谷では活発な熱活動が続いていますので、今後の火山活動の推移に注意してください。また、地獄谷付近では火山ガスに注意が必要です。

噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気など表面現象の状況（図1～9、図11-①）

芦峠監視カメラ（弥陀ヶ原の西約18km）による観測では、地獄谷からの噴気の高さは200m以下で経過しました。

北陸地方整備局の協力により14日に実施した上空からの観測では、地獄谷周辺では、引き続き白色の噴気が上がっており、特に紺屋地獄や百姓地獄において活発な噴気活動を確認しました。また、紺屋地獄周辺の雪面が火山ガスの影響で黄色く変色していることを確認しました。立山カルデラでは、新湯で湯だまりと噴気を確認しました。泥鰯池周辺の河川沿いでは、これまでの観測で熱活動が確認されていますが、特段の変化は見られませんでした。

・ 地震や微動の発生状況（図10、図11-②）

今期間、地獄谷周辺の地震活動は、低調に経過しました。
火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動の状況（図11-③～⑥、図12）

地殻変動観測では、火山活動によるとみられる特段の変化は認められません。



図1 弥陀ヶ原 地獄谷からの噴気の状況（橙丸）（5月28日、芦峠監視カメラによる）

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧できます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

次回の火山活動解説資料（令和7年6月分）は令和7年7月8日に発表する予定です。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学、名古屋大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。

資料の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています。

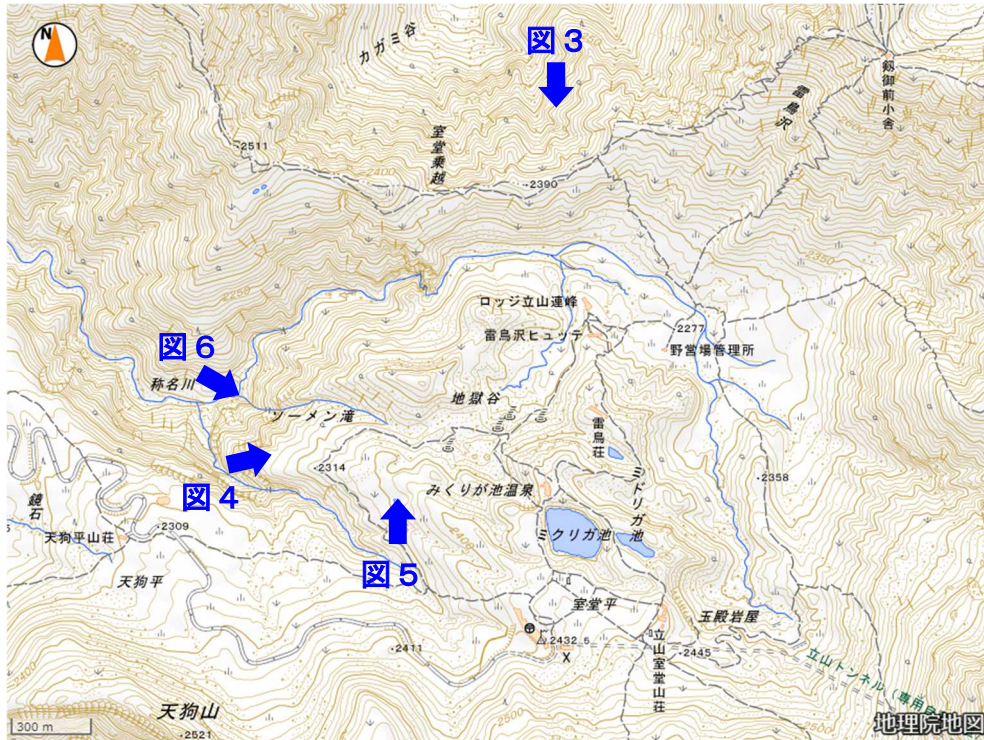
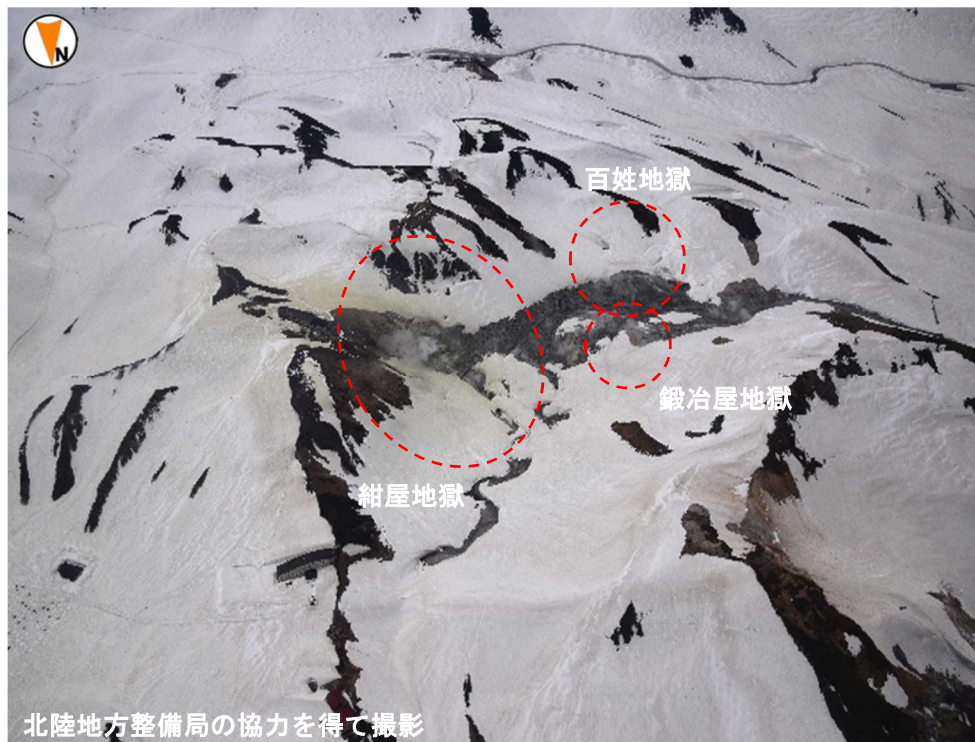


図2 弥陀ヶ原 上空からの撮影位置（地獄谷周辺：図3～図6）



北陸地方整備局の協力を得て撮影

2025年5月14日10時31分 天気：薄曇り

図3 弥陀ヶ原 地獄谷の状況（北側から）

- ・地獄谷周辺では、引き続き白色の噴気が上がっており、特に紺屋地獄や百姓地獄において活発な噴気活動を確認しました。また、紺屋地獄周辺の雪面が火山ガスの影響で黄色く変色していることを確認しました。

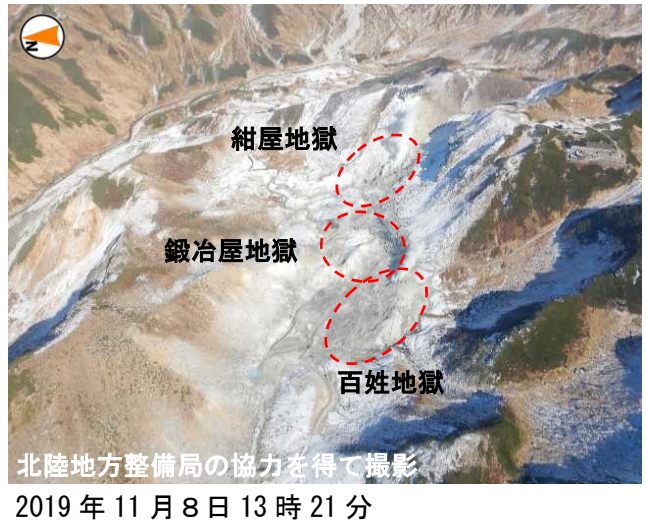
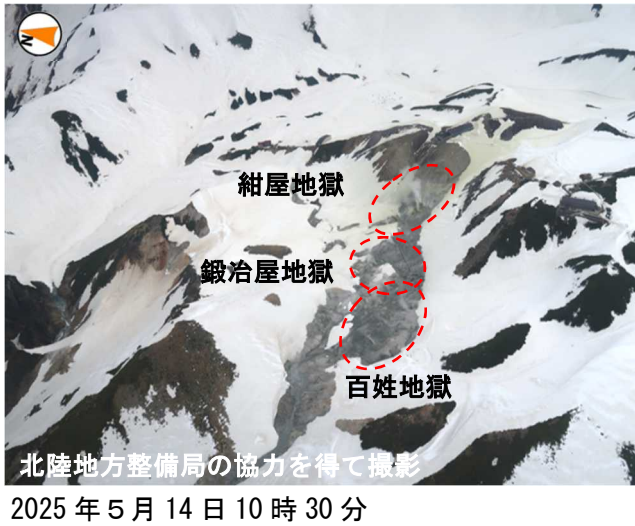


図4 弥陀ヶ原 地獄谷の状況（西側から）

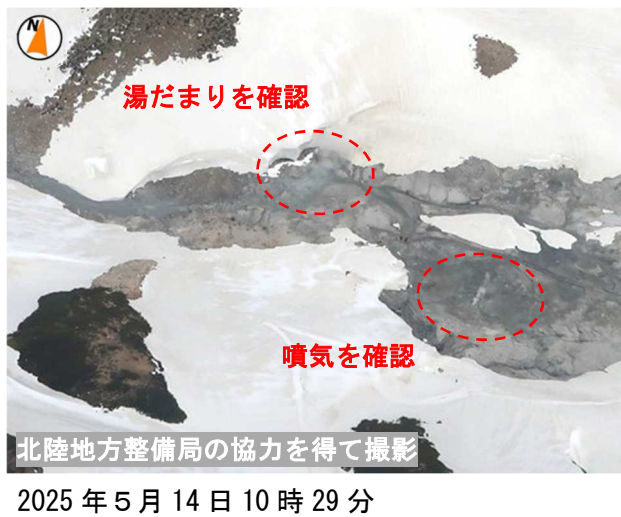


図5 弥陀ヶ原 地獄谷の状況（鍛冶屋地獄の北西下流域）

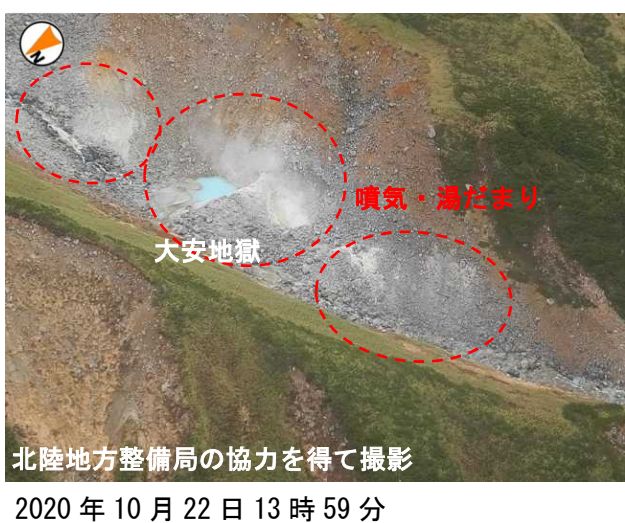


図6 弥陀ヶ原 地獄谷の状況（ソーメン滝付近）



図7 弥陀ヶ原 上空からの撮影位置（図8、図9）



北陸地方整備局の協力を得て撮影

2025年5月14日10時44分



北陸地方整備局の協力を得て撮影

2020年10月22日14時03分

図8 弥陀ヶ原 立山カルデラ新湯の状況



北陸地方整備局の協力を得て撮影

2025年5月14日10時45分



北陸地方整備局の協力を得て撮影

2020年10月22日14時07分

図9 弥陀ヶ原 立山カルデラ泥鱈池周辺の状況

- ・立山カルデラでは、新湯で湯だまりと噴気を確認しました。泥鱈池周辺については、河川沿いで熱活動が確認されていますが、これまでの観測と比較して特段の変化は見られませんでした。

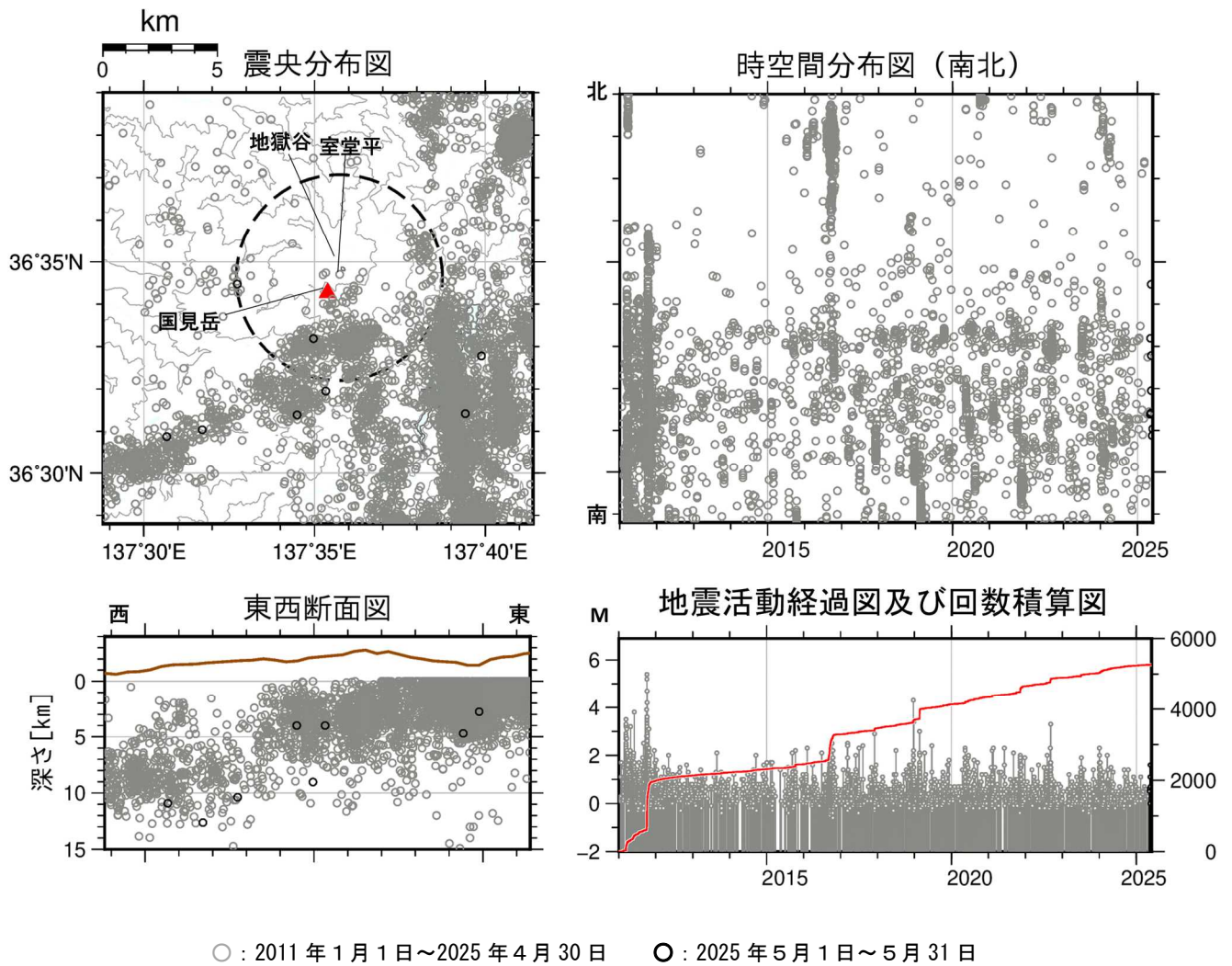


図 10 弥陀ヶ原 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動（2011 年 1 月 1 日～2025 年 5 月 31 日）
 震央分布図中の円は弥陀ヶ原の計数対象地震（室堂平で S-P 時間 1 秒以内）のおよその範囲を示しています。
 広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。なお、2020 年 9 月以降については、地震観測点の標高を考慮する等、震源決定の手法を変更しています。
 図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。

・今期間、地獄谷周辺の地震活動は、低調に経過しました。

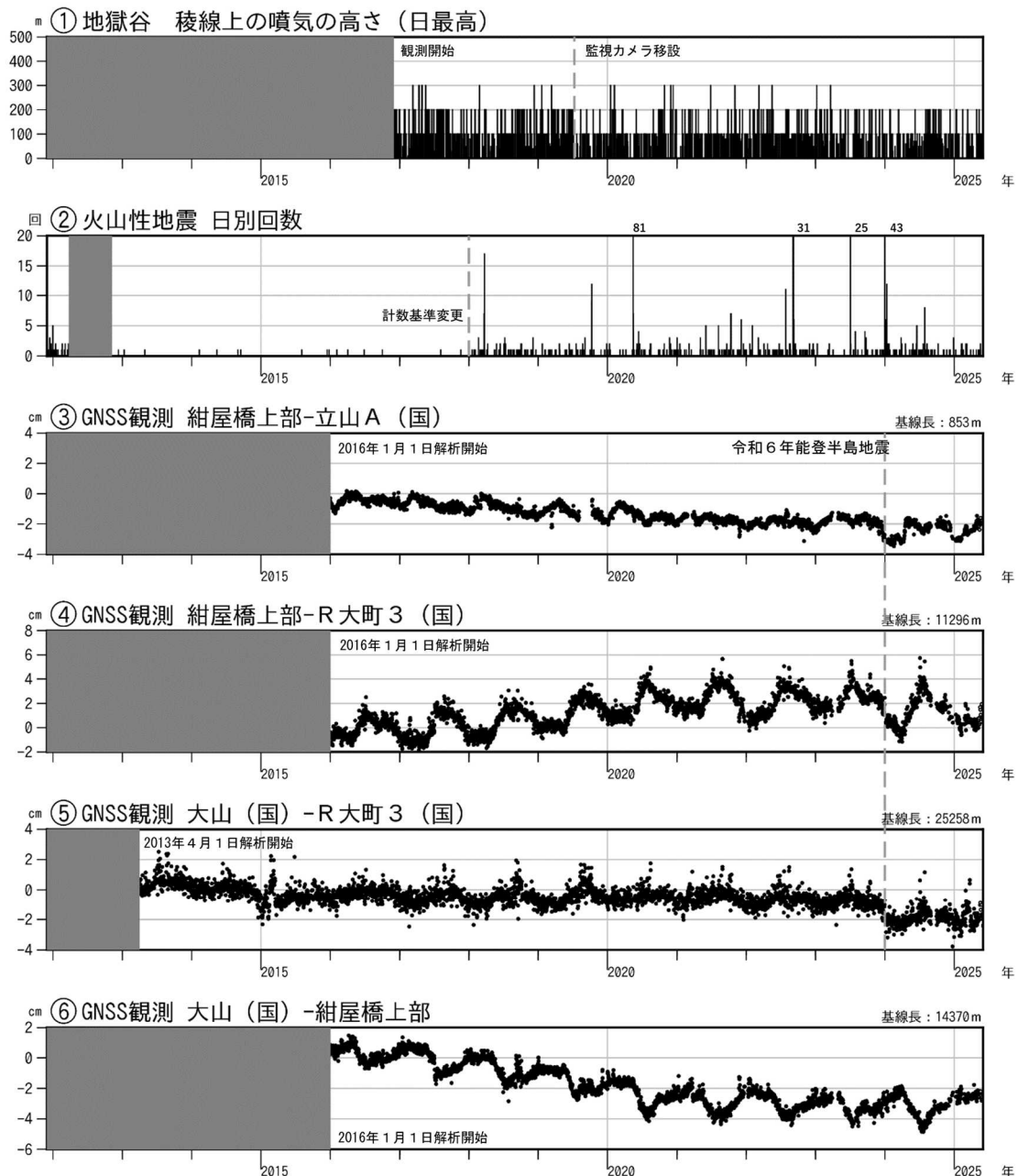


図 11 弥陀ヶ原 火山活動経過図（2011 年 12 月 1 日～2025 年 5 月 31 日）

①噴気の高さの観測は2016 年 12 月 1 日開始

* 監視カメラの移設

2019 年 7 月 10 日まで：瀬戸蔵山西監視カメラによる

2019 年 7 月 11 日から：芦峠監視カメラによる

①、③～⑥灰色部分は観測・解析開始以前を示しています。

②灰色部分は機器障害による欠測を示しています。

* 火山性地震の計数基準

2017 年 12 月まで：立山室堂 2 の上下動成分で最大振幅 $40 \mu\text{m/s}$ 以上、S-P 時間 1.0 秒以内

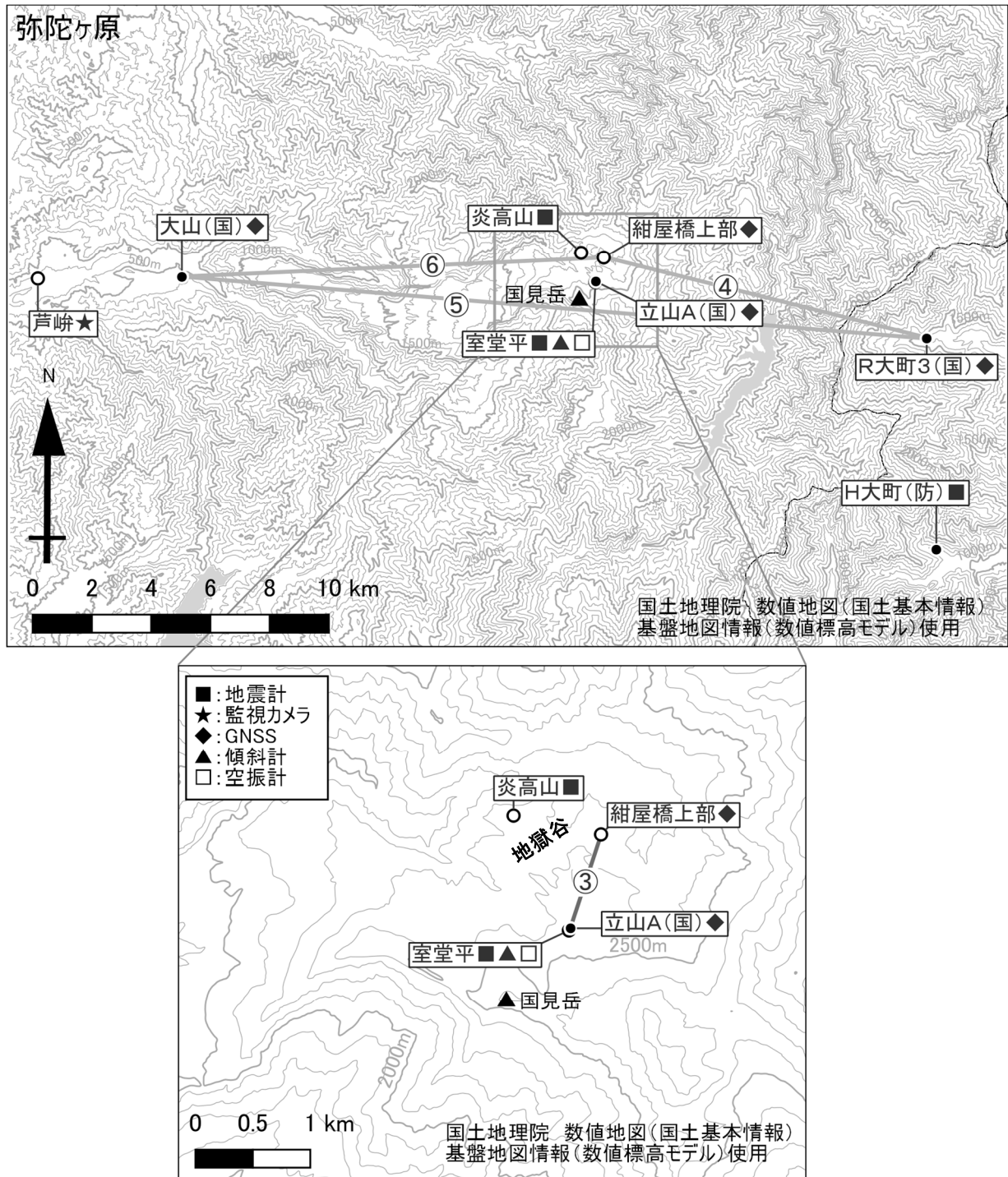
2018 年 1 月から：室堂平の上下動成分で最大振幅 $1 \mu\text{m/s}$ 以上、S-P 時間 1.0 秒以内

③～⑥GNSS 連続観測による基線長変化、空白部分は欠測を示します。（国）：国土地理院

・地獄谷からの噴気の高さは 200m 以下で経過しました。

・今期間、地獄谷周辺の地震活動は、低調に経過しました。2018 年 1 月の計数基準変更以降、時々地震回数の急増が見られますが、いずれも地獄谷から離れた場所で発生した地震によるものです（②）。

・GNSS 観測では、火山活動によるとみられる変動は認められませんでした。また、令和 6 年能登半島地震によると考えられる変動がみられます（③～⑤）。



小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院、（防）：防災科学技術研究所

図 12 弥陀ヶ原 観測点配置図

図中の GNSS 基線③～⑥は図 11 の③～⑥にそれぞれ対応しています。